

ペルシャ・イスファハン日蝕観望記

(1999年8月5日～14日)

たけさこ (<http://www2c.biglobe.ne.jp/~takesako/>)

観測場所は初めはトルコを考えていたけど旅程が厳しいので、今回の日食での最高の晴天率+ペルセポリスも見られる「ペルシャ・モスクワ10間コース」に決定。

◆ 第1日目 8月5日(木)(成田→モスクワ→テヘラン)

初日はモスクワ経由テヘランまで。このツアーの募集定員は55名だったが、8日コースに人気が集まり10日コースは結局添乗員さんとインストラクターさんを入れて18名。

6日の早朝2時半にSU515にてテヘラン着。ターミナルまでのバスからビデオを取っていた人に警官が走ってやって来て、連行しようとしてもめる。「月を撮っていた。」との説明でどうにか納得(?)して警官は戻って行った。やはりイランかなと思う。

◆ 第2日目 8月6日(金)(テヘラン)

午後から市内観光。イランの女性は髪はベールに包んでいるが、彫りの深いきれいな女性が多い。イランは「むさい男の国」という先入観がだんだん崩れて行く。ツアーの一人が早速写真撮影に挑戦。女性の撮影は駄目なのかと思っていたが、そんなことは無いらしい。観光の途中でも、イランの人が「ジャポニ？」とか気安く声をかけてくる。すれ違う全ての人の視線は我々に向いている。こんな「ジャポニ？」攻勢&人寄せパンダ状態がイランを出るまで続いた。

◆ 第3日目 8月7日(土)(テヘラン→シラズ)

夕方に考古学博物館等の見学を終わり空港へ。どうにか無事に離陸したが、上空にあがった直後に「雲がみえます。」という禁句の音が。だんだん雲量は増え雲海が広がった。シラズ上空ではまったく雲の中。雲海をくぐっての着陸。高度が下がってくると、まったく予想していなかった比較的高い山並みが見えてくる。イランは「砂漠の国」という印象もまた間違いであったことが判明。山=雲で、これが事前に分かっていたら観測地の選定に影響があったかも。

◆ 第4日目 8月8日(日)(シラズ)

午前よりペルセポリス見学。遺跡の入り口にあるクセルクセス門は真西に向かって立てられ、春分、秋分にはこの門の後ろから、太陽が見通せるとのこと。門の先には道が真西に続いており、前方の山には大和の二上山を思わせる二つこぶの山があり、大和の大神神社と二上山の関係と酷似していた。ここにも「太陽の道」があるのかな？

◆ 第5日目 8月9日(月)(シラズ→イスファハン)

イスファハンまでの400Kmをバス移動。イスファハンに近づくにつれて、空が晴れてきて星が見え始める。バスのガラス越しに琴座、白鳥、サソリ、天の川もはっきり見える。10時過ぎようやくイスファハンへ到着。でも、宿は内鍵も無いホテルで、テンションも落ち気味。

◆ 第6日目 8月10日(火)(イスファハン)

午前は歩いて観測候補地のひとつイマーム広場へ。大きな広場で周囲に店が並んでいる。観測予定の

モスクの中は狭く、人が集まったらどうなるかと若干心配になる。午後はもう一つの観測予定地のムバラケ公園でリハーサル予定だったが、到着は4時50分。バスの中で皆既予定時刻を過ぎてしまった。機材を広げてカメラをのぞいていると、子供&村の青年団がよってきて最終的には40人余りに。しょうがないので、機材は撤収。明日が心配に。回りを散歩すると、川幅20mの急流にそって木々が茂り、遠くには山が見え、カナディアンドライの世界。

◆ 第7日目 8月11日(水)(イスファハン)

7時起床。恐る恐る破れたカーテンの下から、外をのぞくと、雲一つ無い快晴。やはりイランを選んだ良かったと思う。8時から朝食兼打ち合わせ。観測場所は、ホテルの屋上2名、イマーム広場6名、ムバラケ公園10名に決定。8日コースはイマーム、ムバラケで半々とのこと。イマーム組みは場所の心配もあり8時半に場所取りに出発。交代で見張りをすることに。1時半より日蝕特別お祈りが始まり、女性用お祈り所の入り口に陣取っていた我々は少しどかされる。他の外国人はほとんどいない。2時過ぎから雲が低空にゆっくり流れ始め若干心配に。

3時15分食が始まる。双眼鏡で見ると欠けているのが分かる。イランの方も観測陣が珍しいのかこちらを向いて座り、集まり始める。4時には食も進み、回りを撮って使いきったフィルムを日蝕撮影用のフィルムに交換し、皆既を待つ。だんだん涼しくなっていく。すると、いままで低空にあった雲が突然消滅。今回の皆既観測の成功をやっと確信。

4時32分過ぎ。ダイヤモンドリングに。1/2000にて何枚か撮る。周りで我々を見物していたイランの人もようやく背後にある異様な太陽に気づいたのか「オー」という声上がる。ダイヤモンドの状態は比較的長く4、5秒あったと思う。

4時32分40秒すぎ、ダイヤモンドリングが終わり、まわりのコロナが明るくなった。プロミネンスが全周にわたり赤く環をつくり、その全方向にコロナが伸びている。目で直接見ると、太陽がモスクの上で燃えていた。1/1000より2段刻みに2枚ずつ上げる。今回はあまりに余裕を持ってやっていたためか、2秒に来たときに、食が終わり第3接触へ。1/1000に戻す時間が無いが、シャッターだけは切る。皆既の時間がすごく早く感じた。双眼鏡で見上げる時間もなく、皆既の写真も20コマ弱しかとれていなかった。次回への反省点。

5時43分日蝕終了。連続をしていた人の片付けを待って撤収。途中のジュース屋でアイスクリームを食べて祝杯(?)、とてもおいしかった。

◆ 第8日目 8月12日(木)(イスファハン→テヘラン)

朝10時出発だが現地ガイドさんが遅刻し10時半イスファハン出発に。遅刻の理由は「日蝕で興奮して眠られなかった。」だった。道草もあって結局、夜9時半テヘランのホテル着。出発も2時間早くなって、早朝12時過ぎ空港へ向け出発とほぼ予想通りの日蝕日程で進行。

◆ 第9/10日目 8月13/14日(金/土)(テヘラン→ロシア→成田)

13日は金曜日。7時50分雨のモスクワ空港着。赤の広場の真中で、傘をさした現地ガイドさんの説明を、傘も持たずにずぶ濡れになりながら聞く典型的ロシア観光を済ませた後、夜零時にSU581にてモスクワを出発。予定通り朝9時過ぎに成田に無事到着。

半分恐いもの見たさで選んだイランだったけど、ペールの下はペルシャンブルーの青空の様に陽気な親日派だった。こんな国で見た日蝕、強く印象に残りそう。